ウナギやカニに大喜び

高鍋東小 児童触れ合い体験

素手でウナギを触る高鍋東小の児童

河川愛護の意識を育てようと小丸川漁業協同組合（前田和則組合長）は10日、高鍋町の高鍋大橋下流で水生生物との触れ合い体験を開いた。高鍋東小（千田洋一郎校長、612人）の1年生110人が参加。ウナギやヤマタロウガニ（モクズガニ）を触ったり、川に放流したりして生き物や自然の大切さを学んだ。

同組合などがウナギ15キロ、ヤマタロウガニ25キロを用意した。動く姿を見るのが初めてという児童もおり、子どもたちは興味津々。水槽の中でぬるぬると動くウナギを触ったり、はさみに注意しながらバケツの中のカニをつかんだりして楽しんだ。岩切優太郎君（6）は「ウナギのおなかに触ったらつるつるしていた」。富永麗迦さん（6）「カニははさみに挟まれそうで怖かったけど楽しかった」と笑顔だった。

触れ合い後、カニは子どもたちが、ウナギは組合員が川に放流。前田組合長は「川を大事にする気持ちを持ってもらえたらうれしい」と話していた。放流したウナギとカニは3～5年ほど川で過ごし、海に出ていくという。

27.7.15
宮日